

## 『岩手応援マンガ家ボランティアツアー（10月8日～10日）』報告

### ◎ 8月18日～10月7日 【2回目のツアー実現まで】

しりあがり寿さんがSAVE IWATE（以下SVIと略す）寺井代表と高校時代に同級生だったというご縁で、第1回マンガ家ボランティアツアーが行われたのは5月のこと。釜石東中学校での『マンガ授業』が多くのマスコミで報道されたので覚えていらっしゃる方もいると思う。8月18日、このツアーの打ち合わせのために作られたメーリングリストに、しりあがりさんからの書き込みがあった。

「寒くならないうちにKAWAIキャンプ行きましょー、みたいな話が出てたようなマークづくりに携わった戦車さん、関根さんあたりのスケジュールがあえば、行ける人だけでも行っちゃいますかー？」

確かに前回、また来るからと何人かの方に言われたのだけれど……

私一人があればよければと言っている間に日程調整が済み、首都圏と北海道、そして盛岡在住のマンガ家さんたちが再び（あ、しりあがりさんと岩井さんは『三たび』です）ボランティアに来てくれることが決まった。

#### 【今回の参加者】

朝倉世界一 市川ラク 岩井好典 おくやまゆか しりあがり寿（9日夜～） 鈴木みそ セキネシンイチ  
寺田克也 とり・みき 中島恵 かな（にざかな） 松田めぐみ 三宅乱丈 茂木功 安田弘之  
安永知澄 吉田戦車（アイウエオ順 敬称略）

### ◎ 10月8日（土）【釜石Nさん宅の草取りの後、KAWAIキャンプ泊】



出発前、盛岡駅前で打ち合わせ中

快晴。

集合が『盛岡駅午前9時』なので、皆さん各地から三々五々集まってくる。2度目の方が多いせいか、みなさん気負うところもなくブラブラ集まってくる感じがちょっと素敵。そう言えば、夜行バスで来た方々は集合時間まで『〇〇の湯』に行っていたとのことなので、この『ゆるり』感は温泉効果なのかもしれない（そんなことないか……）

簡単な打ち合わせの後、釜石のNPO『@リアス』

のメンバーおふたりと合流し、5月に瓦礫撤去のボランティアを行ったNさん宅へ向かう。

緩やかな斜面の上にポツンと一軒だけ残ったNさんの家。津波はNさんの家よりも低いところにあった建物を全て流してしまった。5月に来た時にはすべて瓦礫に覆われていたその場所が、今、一面の雑草に覆われている。

岩手に来る直前に腰を痛めてしまったという三宅さん、前回のボランティア時に釘を踏み抜いてしまったセキネさんに、軽口混じりで「注意をするように」と言う声が飛ぶ。（セキネさんの名誉のために書いときますが、これはあたしが悪かったの。踏み抜き防止のインソールは必要ないって皆さんに伝えたのはあたし

なんですよ。本当にごめんなさい)

作業開始時にはあちこちであがっていた話し声もだんだん聞こえなくなって、黙々と作業すること2時間強。一休みを勧める声がかかって、Nさんが準備してくれただんごで『こびる (いわゆる『おやつ』です。小さなお昼の意だと思う)』タイムに。

「たいして手伝ってもいないのにごちそうになってばかりで」

「いえいえ、本当にありがたいですよ。お礼を言



こびるにいただいたうどんはとても美味でした

しい風景なんだけれど、そんな会話を耳にしている  
と少しだけ気持ちが和むような気がする。

日が傾いて吹く風が少しだけ冷たくなったのを契機にNさんにおいとまをし、KAWAI キャンプへ。

入所のオリエンテーションで、KAWAI キャンプのマークを作った戦車さんとセキネさんが紹介されると「おおお～」という控えめなどよめきが起こったり、7月に料理エッセイを出版したばかりの戦車さんが熱烈なリクエストに応じてくれて『逃避めし



『逃避めし』in KAWAI キャンプ



時間が経つにつれどんどん無口になった作業風景

うのはこっちの方です」

うどんをすすっている最中、マンガ家さんたちとNさんとの会話が耳に入ってくる。町内会の草取りとか、親戚の家に手伝いに来ているみたいな雰囲気だ。さっき「根まで抜かないから、またすぐ生えて来るだろうな」と誰かが言っていたけど、ついつい「その時はまた来てくださいよお」と口走りそうになったのは、この人たちの醸し出すこういう気易さのせいなんだろうと思う。目の前に見えるのは、まだ取り壊されていない全壊の家屋数軒だけという悲



なんと！今回のためのオリジナルTシャツ

in KAWAI キャンプ』が実現し、そこに居たボランティアのほぼ全員がメンマ入り焼きそばとふわふわオムレツを試食 (大層おいしゅうございました) したりしているうちに、KAWAI キャンプの消灯時間22時が来てしまう。深夜の冷え込みが酷くならないようお願いつつ、就寝。



やたら楽しげな KAWAI キャンプの朝ミーティング



大槌仮設コンビニから海を臨む

かなあ。(詳しくはベルガーディア鯨山のホームページをごらんください)

元々はオーナーの佐々木さんが趣味で造っていた写真の石造りの建物、図書館が流されたため、「子どもたちが落ち着いて本を読める場所にしたい」という目的で建設することに。今日は此処の床面づくりのお手伝いをする事になっている。

初めましてのご挨拶がすむと、早速、今日の手順の説明を受ける。テンガロンハットの佐々木さんは飄々と話してるけど、かなりの肉体労働では？

予感現実のものとなり、あちこちから  
「半端なくキツイ」  
「本当に重い」  
「腰が、腰が」  
「これ、労基法違反ですよ」

こんな、へこたれモードのご発言が飛び交う。でもその割には、作業の手を緩める人は見あたらない。

それほど寒くなかったことに感謝しつつ起床する。本日も快晴。

早起きして、なおかつ元気な希望者は、茸とり&クルミひろいに出かけた。寝坊助の私は行かなかったのので後で話しを聞いたが、やはりぶっつけ本番で取れるほど茸は甘くはなかったとのこと。クルミはたくさん拾えたそう。

各々で朝食を取った後、和気あいあいとしたオリエンテーション。それから、大槌を通過して浪板へ向かう。途中、昼食の買い出しのために立ち寄った大槌の仮設コンビニ付近で、急に全員の口数が少なくなる。やはり、この風景は言葉を奪ってしまうようだ。

被災が激しい浪板駅の脇にある踏切を通過して細い坂道を上っていくと、本日のボランティア地、ベルガーディア鯨山がある。『風の電話』があるところと言われてえば思い当たる方もいるんじゃない



『森の図書館』になる予定の建物



聞いただけで節々が痛みそうな作業の説明



石を敷くため床面を 10cm ほど掘り下げ平らにする



掘り下げた床面に敷いて平らにする砂を運ぶ



床に敷く石を運び出す「半端じゃなく重い」とのこと



運び出した石をデッキブラシで洗う



最終的にここまで平らに（完成はまだ先ですけど）

「普段、ペンしか持たない方たちに、こんなことお願いして良かったのかしら？」

「俺、マンガ好きで、ビームも読むんだけど……心配ですよ、『作者、急病のため今月号の掲載はお休みします』とか載っちゃってたら、こりゃ絶対うちのせいだあって思うでしょ」

お昼ご飯の準備をしてくださっている、お連れ合いさんと息子さんが心配する中、ツアーのみなさんは休みすらあんまり取っていなかったんじゃないのかな？たぶん気づいていないと思うんだけど、みなさん、顔が『真剣勝負』してました。



松茸&栗ご飯とサンマつまみれ汁という豪華昼食

途中、松茸と山栗の炊き込みご飯とサンマのつまみれ汁という豪華なお昼を美地層になったお昼休憩を挟んで、再び作業開始。最終的には、床面の砂敷きまで終了させたのは、みなさんの営々とした努力のたまものだと思う。いや、ホントに途中で「絶対終わらない」って思いましたもん。



マンガ家ツアーは、やはり色紙が『お約束』

この後「色紙描いてもらうのを失念しました。帰りに寄っていってくれませんか」という要請で、KAWAI キャンプに一時立ち寄り、宿泊先のつなぎ温泉へ。お仕事のため本日岩手入りした、しりあがりさんと合流し夕飯&宴会。

寺井代表が、現在SVIで進めている『被災地のクルミを買い取ります』プロジェクトの話をして、利用方法のアドバイスをお願いすると、いやー、出るわ出るわアイデアが。「そりゃ、どう考えても無理でしょ」とつつこみを入れたくなるものから「採算が合えばいけるかも」と思うものまで。

ふと「この人たちは真面目だなあ」と思う。いや、真面目というのとはちょっとニュアンスが違うかも。そうだなあ『まっとうな』というのが一番近いのかもしれない。5月の時も今回も、お願いしたことに対してはすべて真摯な姿勢で取り組んでくれた。変にハイテンションになることもなく、自分を誇示することもなく、日常の延長線上として「やれることをやりましょう」と言ってくれる、そういう真っ当さはとても気持ちよいと思った。



奥がクルミプロジェクトについて語る寺井代表

### ◎ 10月10日（月）【SVI 物資部と復興支援センター訪問 仕分け作業と交流会】



復興支援センター 2F の衣料支援を見学

この日はSVI 物資部と復興支援センターを見学し、仕分けをお手伝いいただいた。私がお昼から行われる交流会の準備のためツアーには同行していないので、残念ながら具体的な報告が出来ない。（写真は茂木さんが撮影したものをお借りした）

お昼からの交流会が終わると、みなさんは岩手の物産品を買い求め（「被災地にお金を落とさなくては」と言っている）来た時と同じように三々五々帰路についた（と、思う）。

この3日間、折に触れ皆さんが感じていることを耳にする機会があったけれど、文字に書くとどうも嘘っぽい感じになってしまう。ただ、全くそれに触れないのも酷いので、ひとつだけ紹介したい。今回のみなさんの気分を象徴する言葉だと私は思っている。吉田戦車さんが言ったことだ。

「こういう言い方をして良いか解らないけれど、ボランティア自体は普通に楽しかった。ただ、まだまだ長く、長くかかるんだろうなー、と思った」

その長さを想像すると、あまりにも途方もなくて重苦しい気分になってしまう。だからこそ、目の前のやるべき事をひとつひとつやっつけていこうと思う。必ず結果は着いてくると信じて、今回の戦車さんのように楽しくやればさらに良い。

17時ちょっと前から雨が降り出した。みなさんはまだ帰路の途中だろう。濡れずに帰り着ければいいなと思った。



タイミング良く(?) 60箱も支援物資が届いた